

総合研究所環境調査の結果について(1)

弊社は2003年を目標に全事業場所において国際的な環境マネジメントシステムであるISO14001の取得をめざすGPM活動（環境と調和のとれた事業活動）を展開しています。この活動の一環として、本年1月より総合研究所においても土壌・地下水環境調査を実施してきました。

その結果を9月初旬に大宮市に報告する予定で、データを取りまとめていましたが、土壌・地下水中の重金属分析において、一部に環境基準を超えた数値が検出されましたので、昨16日、大宮市に報告（第1報）を致しました。

環境基準を超えた数値が検出された場所は、総合研究所敷地の北東区域で添付の図面A地点の地下水からカドミウムの最高値3.6mg/lが検出されました（環境基準の360倍）。図面で点線で囲まれた部分は環境基準値（0.01mg/l）を超えた値が検出された場所です。また、クロム、鉛、セレンなどその他の重金属も、分析結果では一部の地点から環境基準を超える数値が検出されています。

この区域では昭和25年から62年までカドミウムを主原料とした顔料工場を操業しており、これが今回の環境基準を大幅に超える数値が検出された原因であると思われ詳細な調査を続けています。数値が検出された地下水は主として地表下5-6メートルの第一帯水層と呼ばれる地中で最上部の透水層で、現在透水性及び流向（流れの方向）を精査しているところです。

この調査結果に基づき、応急対策としての揚水井の最適な設置方案を検討するために、直ちに揚水井を2本ボーリングして揚水試験を実施するとともに、地下水浄化の一端としてまず9ヶ所の観測井に揚水ポンプを設置して揚水処理を開始して影響の拡大を防止する万全の策を講じています。

現在のところ研究所敷地外への影響については確認できておりませんが、今後実施の研究所敷地外の調査により、影響が確認された場合には、問題解決に全力で誠意をもって取り組んでまいります。また追加データの分析を急いで、問題の原因を更に究明し、最適な応急対策及び土壌対策を含めた恒久対応策を講じて、今後周辺に影響が波及しないよう最大限の努力をしていく所存です。



以上